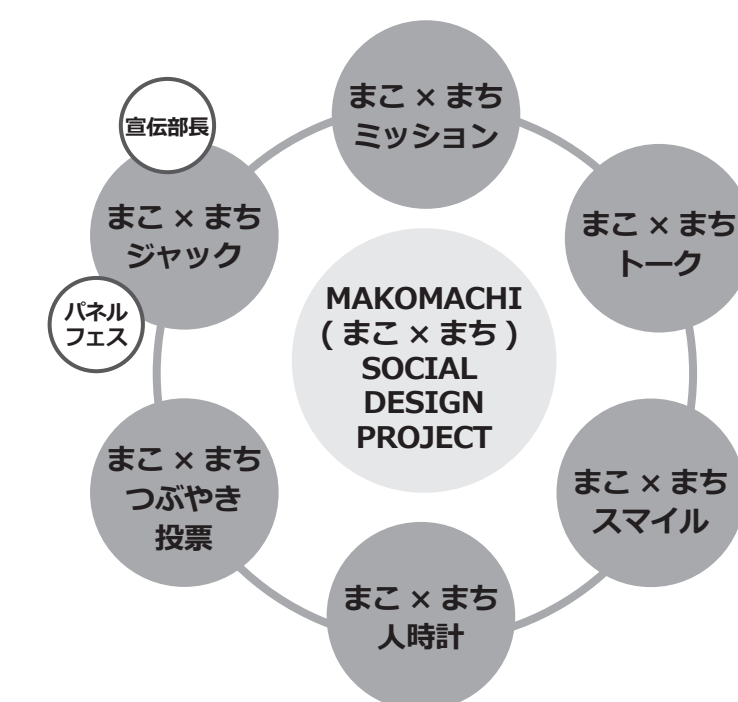


まこ × まちソーシャルデザインプロジェクトとは

札幌市では、真駒内駅周辺の再生について地域の関心を高める取組や、旧真駒内緑小学校の跡利用施設まこまる（以下、まこまる）が開設時から地域のまちづくり拠点として有効に活用されるために実施するプロモーションを通して、地域の交流促進やまちづくり活動の活性化を図ることを目的として、まこ × まち SOCIAL DESIGN PROJECT を立ち上げました。その中で平成 26 年度には右図の 6 つの活動に取組みました。



1. まこ × まちミッション

封切りイベントとして、跡利用施設の愛称やロゴ・看板デザインのモチーフを決める「まこ × まちミッション」を開催しました。



まこ × まちミッションの目的

- ◆参加者がグループに分かれて、真駒内地域でまち歩きを行いながら、ミッションをクリアしていくことで、真駒内地域の素敵な場所、もの、人、風景を探し、まちの魅力を再発見するとともに、参加者を中心とした地域交流を図ります。
- ◆まち歩きで発見したまちの魅力を参加者で共有し、旧真駒内緑小学校の跡利用施設（以下、「跡利用施設」）のロゴマークや看板デザインのモチーフを絞り込みます。
- ◆厳正なる審査の結果、各 5 つに絞り込まれた跡利用施設の愛称と、跡利用施設の中に入る「子どもの体験活動の場」の愛称の中から、地域の人々の意見も踏まえ、それぞれの愛称を決定します。



まこ × まちミッションの開催概要

- ◆開催日時 平成 26 年 9 月 28 日（日） 10：00～15：00
- ◆開催場所 真駒内総合福祉センター 2 階 ホール A・B
- ◆主催 札幌市市民まちづくり局
- ◆参加者 約 40 名（真駒内地域住民を中心とした札幌市民のみなさん）

◆一日の流れ

- 10：00 開会
- 10：20 まち歩き
- 12：00 昼食
- 13：00 モチーフの絞り込み
- 14：00 愛称の選定
- 14：20 未来の真駒内に向けたメッセージとまこ × まち人時計の作成
- 15：00 閉会



「跡利用施設」と「子どもの体験活動の場」の愛称が決定！

市民から広く募集した「跡利用施設」と「子どもの体験活動の場」の愛称から、厳正なる審査の結果選ばれた各 5 つの愛称について、まこ × まちミッションの参加者と地域の方に投票してもらい、以下の愛称に決定しました。

●跡利用施設（施設全体）

まこまる

【応募者の想い】

真駒内の地域住民のみんなが、まるく輪になり、仲良く交流できる場所になるように

●子どもの体験活動

Co ミドリ（こみどり）

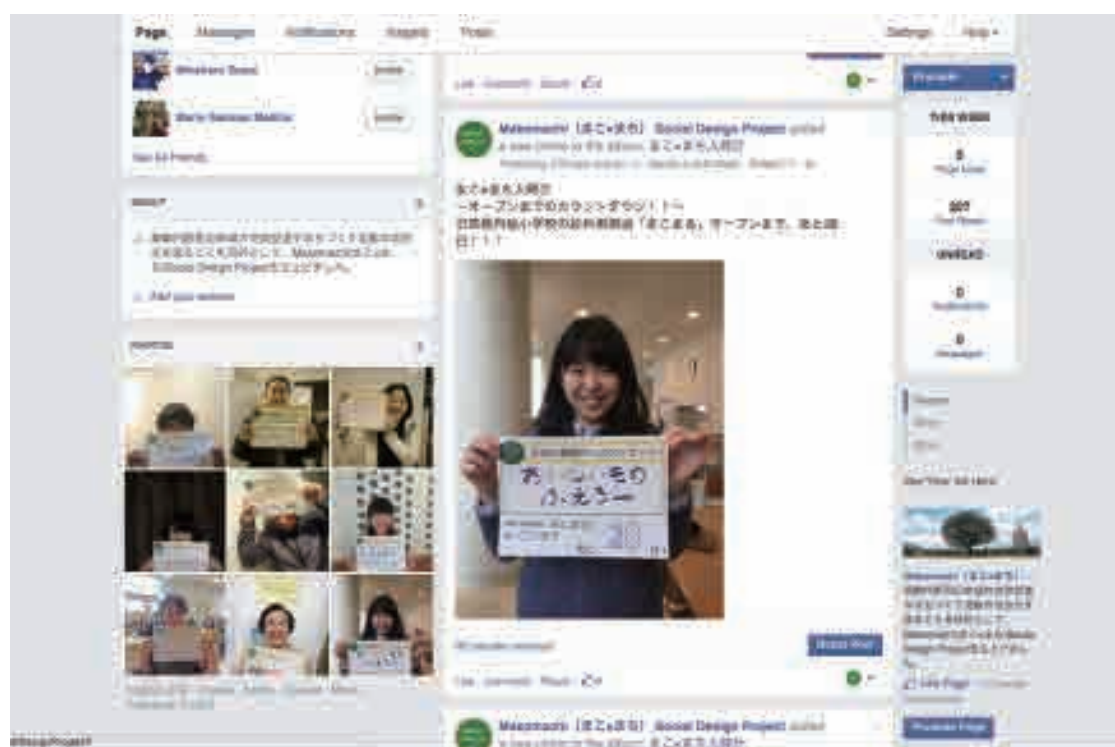
【応募者の想い】

地域に愛着のある真駒内緑小学校の名称「みどり」を使い、子どもを対象とした施設ということがわかりやすいことを意図した。

また、子と Cooperation をかけて、子どもの施設という意味と、協力してやっていくという意図を含ませた。

2. まこ × まち人時計

平成 27 年 4 月の「まこまる（跡利用施設）」オープンに向けて、毎日 facebook（フェイスブック）で、まこ × まちミッションの日からオープンまでの日数を未来の真駒内に向けてのメッセージと共にカウントダウンする、まこ × まち人時計を配信しています。



※こちらの会場から 2 階の「まちづくりルーム（旧図書室）」まで、本日までのまこ × まち人時計を一挙掲載しています！是非ご覧下さい。



まち歩きから見えてきたこと

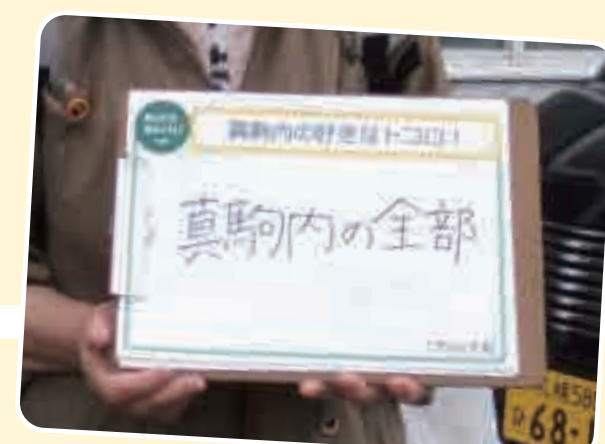
まち歩きの結果から、地域の人々の声や真駒内らしい場所やものの一部をご紹介します。真駒内地域の魅力や、真駒内地域が地域の人々に愛されている理由が見えてきました。



地域の人々が思う「真駒内地域の好きなところ」

グループ毎に 3 人のまちの人に声をかけ、「真駒内の好きなところ」を聞きました。

- 自然が多く、空気が良いところ
- 安心して子育てが出来る環境であるところ
- 真駒内公園などの公園がたくさんあるところ
- お年寄りが住みやすいところ …など（一部抜粋）



真駒内らしい場所やものや人

グループ毎に相談し、真駒内らしさが写る一枚を収めてもらいました。（一部抜粋）



まこまる（跡利用施設）のロゴマークが完成！

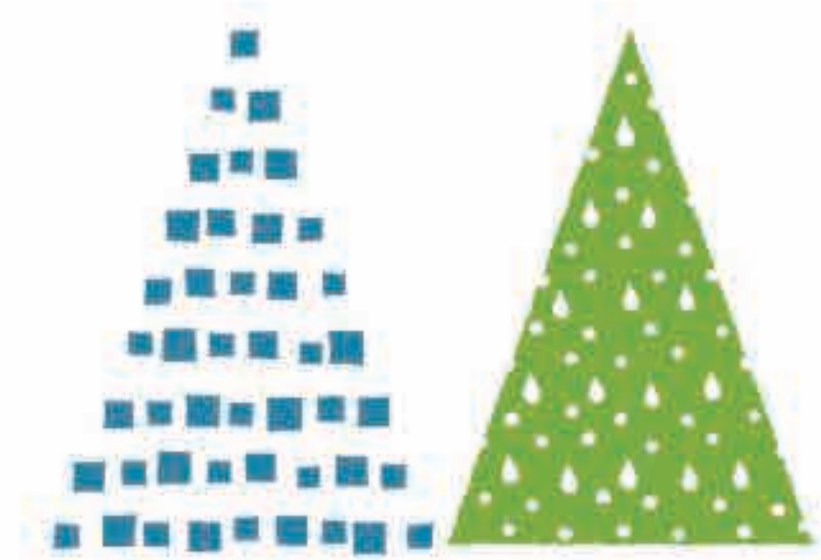
まこ × まちミッションの参加者のみなさんに真駒内地域のモチーフを整理してもらったもの、まこまるの歴史的背景や施設で行われる予定の事業内容などをヒントにデザインされた、まこまるのロゴマークが完成しました。

【イメージしているもの】

- ・真駒内の豊かな自然～緑、しずく、雪（右）
- ・地区に多くある団地、人工的なもの（左）
- ・ロゴ全体が「まこまる」の M の形

【デザインの由来】

まこ × まちミッションの参加者から「真駒内らしいと思うもの」や「真駒内の魅力や好きなところ」として挙げられた、自然が豊か、緑が多い、団地が多いなどの意見を踏まえデザインした。色は、「真駒内らしい色」として多く挙げられていた緑や青緑を主に、子どもを中心とした施設らしく元気な色のトーンとした。



まこ ● まる

3. まこ × まちつぶやき投票



まこ × まちつぶやき投票の目的

真駒内地域のまちづくりへの関心を高め、議論の更なる活性化を図ることを目的として、平成 26 年度に開催された「真駒内の未来を考えるまちづくりアイデアコンペ」において、入賞した作品を地域みなさんに知って頂くとともに、意見や感想などの「まちの声」を集める「まこ × まちつぶやき投票」を開催しました。



まこ × まちつぶやき投票開の催概要

- ◆開催日時 平成 26 年 12 月 1 日（月）～平成 26 年 12 月 7 日（日）
10：00～20：00（最終日は 10：00～17：00）
- ◆開催場所 ミュークリスタル 2 階 真駒内幸町 2 丁目 1-12
- ◆主催 札幌市市民まちづくり局



地域のみさなさんがコンペ作品やまちへの想いをつづやいてくれました

コンペ作品をご覧いただき、感じたことや想いなどを自由につぶやきシートに書いてもらい、作品の横に貼ってもらいました。（以下は一部抜粋です）

地域のみなさんのつぶやき

子どもが遊べる屋内の公園をつくってほしい！



僕の一番理想の真駒内駅前！
できるならこんな感じがいい！

「自然と」と「まち」の共存。
全ての人が住みやすいまちが理想です。



まちあいプレイルームの様な場所ができると
寒い冬も外に出たくなるなあ。。。。

4. まこ × まちカフェトーク



まこ × まちカフェトークの目的

地域住民の真駒内地域のまちづくりへの関心を高め、議論の更なる活性化を図ることを目的として、平成 26 年度に開催された「真駒内の未来を考えるまちづくりアイデアコンペ」において、入賞した作品を地域みなさんに知って頂くとともに、受賞者の方々を招いてアイデアについて直接話を伺い、未来の真駒内地域の方向性やまちづくりのアイデアについて話し合ってもらいました。



まこ × まちカフェトークの開催概要

- ◆開催日時 平成 26 年 12 月 17 日（水） 10：00～12：00
平成 26 年 12 月 20 日（土） 13：00～15：00
- ◆開催場所 ユニバーサルカフェ minna（ミンナ） 真駒内上町 3 丁目 2-12
- ◆主催 札幌市市民まちづくり局
- ◆参加者 各開催日約 15 名（真駒内地域住民を中心とした札幌市民のみなさん）
- ◆ゲスト 17 日 ・「SAPPORO LIFESTYLE SHOWCASE」 升田 大輔 氏
・「みんなでつくるあたらしいまちのかたち」 佐藤 孝祐 氏
20 日 ・「共有しようという気持ちで真駒内を美しくする」 川城 茂一 氏
・「“働くママ”なら真駒内」 大森 貴行 氏
・「＜地＞のデザインとマネジメントで再生する真駒内のバイタリティ」 西岡 誠 氏



◆一日の流れ

【17 日】

- 10：00 開始
- 10：05 入賞作品の内容発表＆ゲストトーク
- 10：45 まこ × まちトークタイム
- 11：45 まとめの発表など
- 12：00 終了

【20 日】

- 13：00 開始
- 13：05 入賞作品の内容発表＆ゲストトーク
- 13：45 まこ × まちトークタイム
- 14：45 まとめの発表など
- 15：00 終了



まこ × まちカフェトークで見えてきた地域の人のキモチ

平成 26 年度に開催された「真駒内の未来を考えるまちづくりアイデアコンペ」において、受賞された方々をお招きし、作品についてお話を伺うとともに、参加された地域の方々と共感した作品のアイデアやこれから取り組むべきだと思うことについて話し合ってもらいました。



地域の人が共感した未来の真駒内地域に大切なこと

- エリアマネジメントを進める団体を組織すること
- 今ある施設を活用していくこと
- 駅前の賑わいを創出すること
- 地域の人が愛着をもつ歴史を残し活かしていくこと
- 真駒内と南区内の他地域と連携し共に発展すること
- 高齢者や障がい者が助け合い活躍するまちになること
- …など（一部抜粋）



地域の人がこれから取り組んでいけそう！取り組むべき！と思うこと

- 「まこまる」を活用して南区内の他地域の商店街が真駒内地域に集まる出前商店街も楽しいのではないか
- 真駒内地域でアーティストの登竜門となる芸術展示の開催
- お祭りの開催と運営団体を組織する
- 地域のみんなで話し合う場をもっと設ける
- ターゲットごとにテーマの異なるワークショップを開き地域の人達とのつながりを深めていく
- …など（一部抜粋）